

4. 複写する

複写 を押します。
複写された内容を確認し、必要に応じて伝票の内容を修正します。

行	借方	金額	貸方	金額	備考
	部門/勘定科目/補助科目 取引先		部門/勘定科目/補助科目 取引先		
1	000 その他 160 商品及び製品	3,388,000	001 第一営業部 614 期末商品及び製品棚卸高	3,388,000	期末繰越し
2	000 その他 160 商品及び製品	3,259,000	002 第二営業部 614 期末商品及び製品棚卸高	3,259,000	期末繰越し
3	000 その他 160 商品及び製品	1,988,000	011 札幌支店 614 期末商品及び製品棚卸高	1,988,000	期末繰越し
借方合計		27,702,000	貸方合計	27,702,000	
			貸借差額	0	

[新規 : 2012/03/31 0:00:00] AcAdmin

F1 操作説明 F2 伝票発行 F3 付属 F4 前伝票 F5 次伝票 F6 複写 F7 印刷 F8 反対仕訳 F9 印刷 F10 中止 F11 F12 閉じる

5. 登録する

終了 を押し、続いて **登録** を押します。

参考

入力時確認（[\[仕訳処理一設定\]画面の\[運用設定\]ページ](#)で設定）が「確認しない」に設定した場合は、**終了** は表示されず、**登録** だけで登録します。

参考

前年度の仕訳を複写する場合は、前年度と今年度のマスター（勘定科目・補助科目・税区分）が関連づいている必要があります。

翌会計年度作成を実行した後に、マスターを変更した場合には、関連付けが解除される場合があります。その場合は、前年度の仕訳を複写する前に、あらかじめ、各メニューで、関連付けの設定を行っておく必要があります。

◀ 勘定科目の関連付け ▶

[\[勘定科目登録\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[科目体系登録\]-\[勘定科目登録\]メニュー](#)）で、前年度との勘定科目の関連付けを行います。

◀ 補助科目の関連付け ▶

[\[補助科目登録\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[科目体系登録\]-\[補助科目登録\]メニュー](#)）で、前年度との勘定科目の関連付けを行います。

◀ 税区分の関連付け ▶

[\[税区分登録\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[消費税基本登録\]-\[税区分登録\]メニュー](#)）で、前年度との勘定科目の関連付けを行います。